

標 題	生産者主体による「産地ビジョンづくり」が着々と進む！ ～園芸だけでなく、畜産においても！～
------------	--

(ダイジェスト)

益田圏域では平成28年度から生産者主体による主要園芸品目の「産地ビジョンづくり」に取り組んでいます。益田市を代表するメロンに続き、ぶどうでもその作業が進み、今年からは県内で例を見ない畜産（和牛）においてもその検討が始まりました。

平成28年度から始まった県の第3期戦略プラン（H28～31）において、益田圏域では「主要園芸産地の維持・発展プロジェクト」を立ち上げ、関係機関が一体となって取り組んでおり、その中の主たる活動として「産地ビジョンづくり」を掲げています。

主要園芸品目（メロン、ぶどう、トマト、西条柿）の中でも、益田市を代表するメロンのビジョンづくりから取り掛かることとし、客観的データや農家のアンケート結果等を基に現状を把握し、生産部会の役員主体で議論を重ね、今月には部会員にその途中経過の報告がありました（令和元年9月13日普及情報参照）。

現在はメロンに続いて、ぶどうでも部会主体で検討がなされており、残るトマト、西条柿においても策定する方向で話が進められています。

品 目	ビジョンづくりに関する今後の予定
メロン	来年1月の総会でビジョン案を提案。
ぶどう	10月の技術反省会で途中経過報告。来年度の完成を目指す。
トマト	役員による意見出しの取りまとめ。今年度中に素案を策定。
西条柿	部会でのビジョンづくりの合意形成、検討開始。

こうした中、これら4品目以外でも5年後10年後の将来像を描いた展開が不可欠であることから、日原山葵生産組合でも意見出しの実施、日原タラの芽生産組合では実態把握のためのアンケート調査の実施等ビジョンづくりに向けた活動が始まっています。

更には管内全域をエリアとする西いわみ和牛改良組合においてもビジョンの必要性を認識され、関係者で将来像を共有するため今後事例調査を実施される予定です。

我々関係機関が農業振興を進める上でその生産主体である組織が自らの将来像を描くことは極めて重要であり、そこには我々の視点では見えない、気付かない事柄が多く存在し、多角的な解決が可能となります。

第3期戦略プランの期間も残り半年となり、ラストスパートの時期を迎えています。主要園芸4品目に限らず、多くの産地ビジョンが完成し、今後の活動がより生産組織主体で行われるよう、引き続き支援を行っていきます。



ぶどう部会の様子